

医療通訳ロールプレイによる技能評価の取り組み

「外国人に対する HIV 検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究」班

研究分担者 宮首 弘子 杏林大学外国語学部教授
 沢田 貴志 神奈川県勤労者医療生活協同組合港町診療所所長
研究代表者 北島 勉 杏林大学総合政策学部教授

研究要旨

当研究班は結核と HIV 双方に対応できる各種言語の医療通訳者の育成に力を入れて、感染症医療通訳研修のモデル化を図り、昨年度までの研修成果をベースに、今年度はさらに内容を充実させた研修プログラムを組み、2 日間にわたる感染症医療通訳研修を実施した。

研修内容は 2 部構成になっている。第 1 部は結核・HIV・保健所業務に関する知識の取得を目的とする座学である。医師による HIV や結核に関する基礎知識の講義、HIV とセクシュアリティに関する認識の講義、保健師による保健所業務と HIV・結核の支援に関する講義を受講してもらうものである（別報告参照）。

第 2 部が通訳スキルの習得を目的とする参加型の研修（以下「ロールプレイ研修」）である。参加者による医療通訳者のロールプレイのパフォーマンスなどに対する評価を可視化あるいはフィードバックして、参加者の通訳技能とモチベーション向上につながることを目指している。研修はまず通訳の基礎トレーニングについての講義を聞いた上で、参加者にロールプレイを行ってもらい、講師は個々の通訳パフォーマンスに対する講評を行い、参加者には二度目のパフォーマンスにより成果を体感してもらった。また、昨年度初の試みとして実施した中国語通訳者グループを対象とするロールプレイ・パフォーマンスの録画を活用したフィードバック勉強会を今年度も引き続き実施して参加者の成果を強化した。

第 1 部の参加者の通訳言語は英語や中国語のほか、ポルトガル語、スペイン語、ネパール語、ベトナム語、インドネシア語、韓国・朝鮮語、タイ語の 9 言語に亘ったのに対し、第 2 部の対象言語は医療通訳需要の多い中国語、ベトナム語とネパール語の 3 言語に限定した。

参加者は東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県をはじめ、山梨県、茨城県、宮城県、静岡県からも集まってきて、広がりを見せた。参加者のプロフィールの特徴としては、地方からの参加者は医療通訳経験者がほとんどで、首都圏の参加者は医療通訳を目指す者が多く、都内の参加者はほぼ医療通訳に関心を寄せる大学や大学院に在籍する留学生であった。研修の効果については、参加者のアンケート結果から、メモ・テーキングなど通訳のテクニックや医療者・患者への対応など参加者の学びのニーズに応える研修内容になったと認められた。

A. 研究目的

2018 年現在日本に住む外国人の人口は約 250 万人に達した¹⁾。少子高齢化に伴う日本の人手不足は深刻で、国会で新たな在留資格についての法案が審議された。今後外国人労働者のさらなる増加が予想される。また、訪日外国人はここ数年右

肩上がりが続き、2013 年に 1,000 万人、2016 年には 2,000 万人を突破した²⁾。日本在住の外国人人口の上昇と、訪日外国人観光客の増加により、様々な分野において外国人の情報へのアクセスが一層困難となることが予想され、早急な改善が待たれる。とりわけ医療現場ではことばの壁が医

療従事者と外国人患者のコミュニケーションを阻害し、治療の妨げになりかねない事態を招いていること、在住外国人と訪日外国人の双方とも医療へのニーズが高まるにつれ、医療通訳者の人材養成やシステム構築がより一層急務となったと言える³⁾。

こうした点に鑑み、当研究班は結核と HIV 双方に対応できる各種言語の医療通訳者の育成に力を入れて、感染症医療通訳研修のモデル化を図り、昨年度までの研修成果をベースに、今年度はさらに内容を充実させた研修プログラムを組み、2日間にわたる感染症医療通訳研修を実施した。

今年度の感染症医療通訳研修は2部構成で、第1部が結核・HIV・保健所業務などに関する知識の取得を主要な目的とする座学であったのに対し、第2部は通訳現場を疑似体験することで通訳技術の習得を主な目的とする参加型のロールプレイを実施した。参加者は、在留外国人数のもっとも多い中国人、これから急増が見込まれるベトナム人とネパール人への医療現場での言語支援が特に求められることから、中国語、ベトナム語、ネパール語の3言語に絞った研修を行った。

本研究は昨年度の研究⁴⁾に引き続き、医療通訳者の養成に必要な通訳基礎技能の習得の方法としてロールプレイ研修を確立することを目的とする。

B. 研究方法

平成30年度のロールプレイ研修(医療通訳研修第2日)は、2018年11月25日(日)10:30~15:30、オフィス東京4階L4会議室(中国語)、5階D会議室(ベトナム語、ネパール語)会議室にてNPO「MIC かながわ」の協力を得て実施された。

今年度の研修の項目・内容と流れは、表1のとおりである。

1. 通訳基礎技術と自己の現状の確認について
通訳技術の基礎を強化する研修の内容は、第1

部では日頃から自主トレーニングができるように、基礎的なトレーニングのやり方を説明したうえで、直前に受けた HIV・結核の基礎知識を取り入れた練習課題を行い、自己採点を通して、自身の通訳レベルの現状を確認してもらった。

第2部では、さらに難易度の高い通訳の基礎技能であるクイックレスポンス、シャドーイング、リピート、メモ・テーキングとは何かを説明したうえで、HIV・結核の検査・告知・受診などの現場において必須の専門用語やフレーズを用いて、演習の形で体験し、自己採点を通して自身の向上と問題点を認識してもらった。

2. ロールプレイ実技演習実施方法

実技演習の指導スタッフは、本研究分担者2名(本研修講師)とMIC かながわのベテラン医療通訳者6名である。実技演習のロールプレイに先立って、昨年度同様、まず参加者には指導スタッフによる寸劇のプレゼンテーションを見て医療通訳の心得を確認してもらった。

ロールプレイ実演は参加者の人数により、ネパール語、ベトナム語はそれぞれ1グループ、中国語は3グループ、全部で五つのグループにわけて実施した。指導スタッフは医療関係者役及び患者役を分担し、それぞれ統一した評価シートのチェックポイントに沿って参加者(通訳者役)のパフォーマンスを評価し改善のための指導を行った。

ロールプレイのシナリオは HIV と結核それぞれ2つで、合わせて4つを用意して、一つのシナリオを前半と後半にわけて、参加者2人で通訳する形をとって進めた。各参加者は同じシナリオを二回通訳するように設定した。

また研修成果の確認のため、研修に関するアンケート調査(別紙2参照)を実施した。

3. ロールプレイの教材および場面設定について

本研修のロールプレイの教材は、HIV と結核の医療通訳が遭遇するであろう4つの場面を取り上げ、沢田医師の監修のもと、NPO「MIC かながわ」がロールプレイのシナリオとして作成した。

シナリオ : 医師が患者に HIV 感染を告知する場面 (別紙 1 参照)

シナリオ : 排菌している結核患者に保健師が初回面接を行う場面

シナリオ : 医師が HIV 患者に治療法を説明する場面

シナリオ : 保健師が退院した結核患者へ服薬支援について説明を行う場面

参加者には事前情報として、結核と HIV に関するロールプレイという設定のみ知らせて、さらに専門用語を 1 週間前に知らせて準備してもらった。患者役は各対象言語の母語者でベテラン医療通訳経験者、医師や保健師役は日本語母語者の現役の医療通訳者が担当し、医療通訳現場さながらの雰囲気醸成してロールプレイを行った。

4 . 評価方法について

今年度は基礎技能についても演習時の自己採点をしてもらい、自己の通訳レベルの現状認識と研修の成果の見える化を図った。

ロールプレイ実演については、指導スタッフがパフォーマンス評価を数値化し、昨年度同様の評価シート (別紙 1 参照) を用いて、参加者への効果的なフィードバックによる改善を図った。また研修参加者が同じ場面を二回通訳するように設定してあることから 1 回目と 2 回目の出来栄を比較して指導を行うことができた。1 回目の通訳終了後に問題点を具体的に指摘し、2 回目はその改善ができたかを確認した。

中国語の 3 つのグループは、事前に参加者の同意を得てロールプレイ実演を録画し数値評価のデータとすることとした。数値評価の視点は、通訳パフォーマンスの出来栄を所要時間に凝縮

されるものとみなし、通訳抜きの各シナリオの対話を読み上げる時間 (実演前に指導スタッフにより測定) をシナリオ基準時間として、基準時間の 1.5 倍をスムーズな通訳対応とみなして通訳の「標準所要時間」として設定した。その上で、各実演者が二回の実演においてかかった時間を各参加者の通訳所要時間として測定した。

録画で集めたデータは、別途実施するフィードバック勉強会で個別指導及び研修成果の共有を図ることとした。

5 . フィードバック勉強会の実施方法

昨年度に引き続き、今回の感染症医療通訳ロールプレイ研修の中国語参加者へのフィードバックのため、別途 2019 年 1 月 12 日 13:00 ~ 15:00 杏林大学井の頭キャンパス通訳演習室にて、感染症医療通訳ロールプレイ研修フィードバック勉強会を実施した。

勉強会では、参加者一人ずつロールプレイの録画を見てもらったうえで、講師からよかった点と改善すべき点を具体的に指摘し、良し悪しの理由と改善の方法を示し、本人の認識を強化した。

また集団での質疑応答により、参加者が日頃通訳現場で感じている問題や悩みについて共有し、講師からアドバイスを行った。

最後に研修成果の確認のため、勉強会に関するアンケート調査 (別紙 3 参照) を実施した。

(倫理面への配慮)

アンケート調査やロールプレイの録画への参加は任意であることを事前に案内文書に記載し、参加を希望しない場合はその旨記載する欄をもうけることで調査参加の同意を得た。

表1. ロールプレイ研修の内容と評価・フィードバック

項目	内容	評価・フィードバック
通訳基礎トレーニング法の講義と実践1	・クイックレスポンスの練習法と実践1	・自己評価と現状の自己認識
	・シャドーイングの練習法と実践1	・自己評価と現状の自己認識
	・リプロダクションの練習法と実践1	・自己評価と現状の自己認識
	・記憶とメモテキング法	
基礎トレーニングの実践2	・HIV・結核専門用語のクイックレスポンス実践2	・自己評価と現状の自己認識
	・HIV・結核の関連文のシャドーイング実践2	・自己評価と現状の自己認識
	・HIV・結核の関連文のリプロダクション実践2	・自己評価と現状の自己認識
	・メモテキングと穴埋め練習	・自己評価と現状の自己認識
ロールプレイの実施(1回目)	・通訳心得の寸劇によるプレゼンテーション	・現場の心得の再確認と共有
	・講師・指導スタッフによる標準所要時間の設定	
	・指導スタッフ(医療関係者、患者役)の指定	
	・シナリオ分け	
	・グループ分け	
	・各参加者ロールプレイ実演1	・講師・指導スタッフによる実施後の評価と指導
	・実演の録画1	・講師による分析と評価(フィードバック勉強会)
・参加者相互の実演見学1	・相互評価	
ロールプレイの実施(2回目)	・1回目と同じシナリオ	
	・1回目と同じグループ	
	・1回目と同じスタッフ	
	・ロールプレイ実演2	・講師・指導スタッフによる実施後の評価と指導
	・実演の録画2	・講師による分析と評価(フィードバック勉強会)
	・参加者相互の実演見学2	・相互評価
フィードバック勉強会	・参加者各自のロールプレイ録画の確認	・講師による各参加者への再評価と再指導
	・研修全体の講評とアドバイス	・講師による全般評価
	・質疑応答	・認識の改善・強化・共有
	・成果アンケート	・研修成果再確認

C. 研究成果

1. 研修参加者のプロフィール

今年度の研修は昨年度同様、医療通訳の派遣事業を行っているNPO「MIC かながわ」に参加者募集を依頼し、1部は8言語34名、2部は3言語15名の参加者を得て、実施することができた。

2部ロールプレイの参加者は、中国語12名(1名見学)、ベトナム語2名、ネパール語2名、合わせて16名で行った。中国語参加者11名のうち6名が大学院生で、3名がNPOの医療通訳講座上級終了者、そのほか国際交流現場に立つ方1名と医療通訳未経験者1名である。ベトナム語は現役医療通訳者1名と社会人1名で、ネパール語は大学生1名と社会人1名である。

昨年度と比べて、すでに医療通訳研修を受けた経験がある方、とりわけ大学院生の参加者が多く、

比較的に言語能力(特に日本語能力)の高い参加者が多かった。また医療通訳に関心を寄せる大学院・大学の留学生、医療通訳者のデビューを控えている方が多く参加したことは特筆できる。

表2. 研修参加者のプロフィール

		参加者	%
		15	
出身国	日本	2	13.3
	外国	13	86.7
通訳経験年数	1年未満	12	80.0
	1年～5年未満	3	20.0
	5年以上	0	0.0
結核・HIV	あり	2	13.3
通訳経験	なし	13	86.7

表 3. 中国語参加者のロールプレイ・パフォーマンス結果

参加者	実施 シナリオ	実施 グループ	シナリオ 基準時間 (S)	標準 所要時間 (T=S*2.5)	1回目 所要時間 (A)	2回目 所要時間 (B)	1回目 迅速度(C= 100*T/A)	2回目 迅速度(D= 100*T/B)	改善率 D/C
1	前	G1	2'05"	5'13"	5'11"	4'05"	100.5	127.6	1.27
2	後	G1	2'29"	6'13"	6'06"	4'15"	101.8	146.1	1.44
3	前	G3	1'48"	5'30"	3'21"	3'11"	134.3	141.4	1.05
4	後	G3	2'12"	6'30"	3'42"	4'17"	148.6	128.4	0.86
5	前	G2	3'28"	9'40"	12'15"	8'30"	70.7	102.0	1.44
6	後	G2	4'07"	10'18"	11'55"	9'13"	86.4	111.7	1.29
7	後	G3	3'17"	8'13"	7'56"	7'08"	103.5	115.1	1.11
8	前	G2	2'38"	7'35"	15'01"	10'07"	43.8	65.1	1.48
9	後	G2	2'00"	5'00"	7'25"	4'35"	67.4	109.1	1.62
10	前	G1	2'38"	7'35"	6'52"	6'26"	95.9	102.3	1.07
11	後	G1	2'22"	6'55"	7'24"	7'28"	80.0	79.2	0.99
平均							93.9	111.6	1.24

3. ロールプレイ実演の成果

ネパール語 2 名、ベトナム語 2 名のロールプレイは、それぞれ 1 グループで実施した。少人数での実施のため、HIV と結核の各シナリオを繰り返して練習し、問題点を相互に指摘し合うなど、細やかな研修を受けることができた。ネパール語の参加者 2 人は、通訳に慣れていて、1 回目 2 回目ともにほぼ完全な通訳をこなした。ベトナム語は、一人はベトナム語を日常的に使っていないため、わかっても流暢に話せないし、日本語の専門用語も弱い。もう一人は日本語の語彙が足りない上、ベトナム語の専門用語もわかっていないとの評価を受けた。

中国語に関しては、11 名の参加者が集まり、3 つのグループに分かれて実施した。各グループ 3 ~ 4 名、指定したシナリオで、各参加者は実演を二巡して相互に観察し、また指導スタッフからのアドバイスを受けて二巡目の実演に反映させた。

事後、講師は録画したロールプレイ実演を分析して、通訳の所要時間と正確さについて具体的な

評価を行なった。中国語参加者のロールプレイのパフォーマンス結果は表 3 のとおりである。参加者のほぼ全員が二回目には所要時間短縮となっており、パフォーマンスが改善していることが窺える。この結果を講師は事後のフィードバック勉強会において各参加者に実演の評価と技能向上のアドバイスに反映させた。

ロールプレイ研修後の参加者アンケートからは、研修で良かった点として「現場疑似体験」「医療専門用語・知識」などが回答された。またもっと勉強したい点として、「通訳技術（メモ取り、記憶法等）」「適切な通訳の方法」「実技」などが挙げられ、適切な通訳技能への関心が高まったことが窺える。（表 4）

表4．ロールプレイ研修後のアンケート結果

質問項目	人数
良かった点	
普段触れない分野の勉強	2
通訳の心得について再確認	3
専門用語・知識	4
問題点の認識・アドバイス	2
現場疑似体験	5
メモ取りなどの通訳技術	3
日頃の自主訓練の方法	3
もっと勉強したい点	
関連する医療専門用語	2
適切な通訳の方法	3
メモ取りなどの通訳技術	3
現場の通訳者の経験談	1
定期的な研修	1
ロールプレイなどの実技	3
小児科、心療内科について	1
効果的な勉強法	1
通訳現場の注意点	1

4．フィードバック勉強会の成果

フィードバック勉強会にはロールプレイ研修の中国語参加者 11 名中、10 名が参加した。また、ロールプレイ研修当日患者役を担った MIC かながわ医療通訳者 2 名にも参加していただいた。

勉強会では、自身のロールプレイの録画を見ることによって、自分の通訳パフォーマンスを客観的に把握し指導を受ける機会を提供できたものとする。また講師からは各参加者に特に通訳内容の正確性に関して問題のある箇所を個々に指摘し改善のアドバイスを行った。指導側としては、本研修では時間的余裕がないため、勉強会を通して映像を交えて、「ここは良かった」、「この場合はこうしたほうがいい」と具体的に参加者とコミュニケーションを取りながら、参加者の納得のいくフィードバックを実現できた。

勉強会後のアンケートから、特に「患者への対応能力」「医療専門用語の理解」「通訳技術」などにおいて効果があるとの回答を得た。またもっと勉強したい点として「通訳基礎訓練法」「医療専門知識」等が挙げられ、医療通訳への関心の高さが窺えた。(表5)

表5．勉強会後のアンケート結果

項目	人数
学んだこと	
専門用語の理解	9
患者からの聞き取りコツ	6
メモ取り能力の要領	8
日中の通訳の要領	4
中日の通訳要領	4
患者への対応の要領	10
医療者への対応の要領	7
もっと勉強したい点	
医療専門知識	3
日頃の通訳基礎トレーニング法	4
現場を想定したロールプレイ演習	1
現場経験	1

D．考察

1．ロールプレイ研修のモデル化の概成

今年度の研修の項目・内容と流れは、前年度までの2年間の実績を踏まえたロールプレイ研修のひな型に基づいて設定した。(表1)

医療通訳ロールプレイ研修の本質的な役割は、高いレベルの通訳者の技能向上というよりは、現場での経験値の低い通訳志望者に医療現場の模擬体験をしてもらうことであり、未経験からくる心理的ストレスを軽減し、医療従事者や患者への対応の要領を体感して修得してもらうものである。

この目的のため、研修では、医療専門知識や通訳技術といった基礎的技能を確認・強化し、現場での応用力(対応力)を養成するプログラムが必要となる。特に応用力の養成には適切な評価とフィードバック(内省)が不可欠である。すなわち、
 実演 評価 フィードバック
 という流れを適切に組み入れることである。

今回の研修とそのひな形は、こうした評価とフィードバックを含んだプログラムとしてロールプレイ研修の一つのモデルを概成したものである。

2．パフォーマンス評価とレベル別通訳技能評価の可能性

ロールプレイ実演における各参加者の1回目と2回目の所要時間を比較すると、2回目では平均2割近い短縮がみられた。

このことを、異なるシナリオの所要時間を標準化し数値化して評価するために、各シナリオの標準所要時間を100点とみなして、その標準所要時間に各参加者の実演の所要時間の逆数を掛けて100倍したものを標準化した「迅速度」とした。(表3) 迅速度は高いほど所要時間が短縮された実演であったことを意味している。

二回の実演の迅速度を散布図で示したものが図1である。この図では次の基準で領域を分類している。

- ・領域A: 1回目、2回目とも迅速度100超(標準所要時間以内)
- ・領域B: 1回目は迅速度100以下、2回目は100超
- ・領域C: 1回目、2回目とも迅速度100以下(標準所要時間以上)

この分類の意味するところは、領域A、Bの参加者は通訳基礎技能があり、領域Cの参加者は通訳基礎技能が不足しているということである。また領域Aは通訳経験があり、領域B、Cは通訳未経験(に近い)ということである。

このことを踏まえて、領域別(レベル別)の技能評価と適切な指導・アドバイスの指針を設定することが可能となると考える。(表6)

3. 少数言語の通訳人材確保の難しさ

昨年度の続き、今年度もベトナム語やネパール語の参加者が少なく、2名ずつ4名の参加に留まった。少数言語の通訳人材確保が困難であることが浮き彫りになったと言える。

ベトナム語やネパール語は参加者のレベルよりも参加者が集まるかがむしろ課題だと言わざるを得ない。今後さらに技能実習生や留学生の増加が見込まれるのに対し、両言語ができる人材の確保があいかわらず困難な状況が続いている。少

数言語を習得した日本人が少ないことを踏まえると、今後は留学生の活用が現実的な方法だと考え、留学生を対象とする研修の可能性を模索したいと考える。

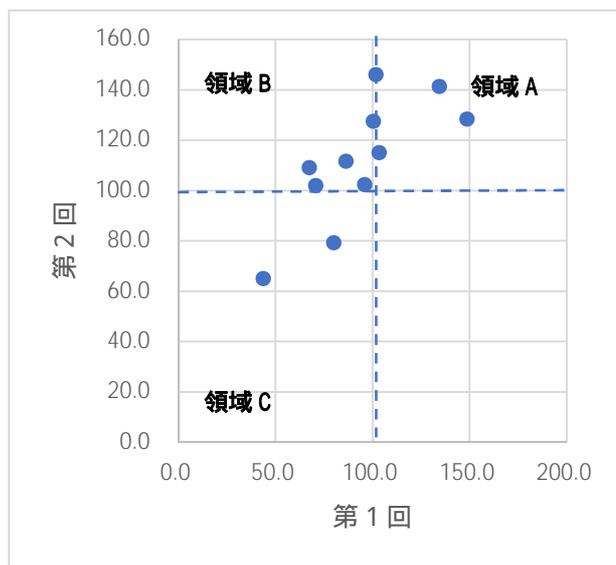


図1 ロールプレイ実演二回の迅速度散布図

表6 レベル別技能評価と指導

領域	レベル	技能評価	指導アドバイスの指針
A	通訳経験者	現場対応能力あり	医療用語知識の強化
B	通訳養成者	通訳基礎技能あり	医療現場での対応技能の強化
		現場対応力不足	
C	基礎養成者	通訳基礎技能不足	通訳基礎技能と医療基礎知識の修得
		現場未経験	

E. 結論

昨年度に続き、今年度もロールプレイのパフォーマンス評価の試みとして、各参加者の二回のパフォーマンスの時間改善率を設定した。この指標は通訳者の適切な技能評価と技能向上のための指導・アドバイスの指針となる可能性があり、さらなる分析を継続したいと考える。

また、過去2年間のロールプレイ研修の実績から、ロールプレイ研修のひな型を作成して研修を実施した。適切な通訳技能評価態勢とそれぞれ二

回実演を実施することによってフィードバックが充実し、さらにフィードバック勉強会で各参加者の問題点の改善・確認も強化された。この流れは円滑に実施されたところであり、このことからロールプレイ研修の意義と方法論が確立したものとする。

参考文献

- 1) 総務省「(外国人住民)平成30年住民基本台帳年齢階級別人口」
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei02_02000177.html 2018年9月閲覧
- 2) 日本政府観光局「訪日外客数(年表)」
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html 2018年9月閲覧
- 3) 厚生労働省医政局総務課医療国際展開推進室(2017)『医療機関における外国人旅行者及び在留外国人受入れ体制等の実態調査』厚生労働省ウェブサイト (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000173226.pdf>) 2017年9月閲覧
- 4) 北島勉、他(2017)『外国人に対するHIV検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究』平成29年度総括・分担研究報告書(厚生労働省・科学研究費補助金エイズ対策研究事業)

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

(ロールプレイ・シナリオ)

シナリオ (HIVトレーニング)

HIV告知場面の会話通訳マネジメント技術を習得する

(背景) 34才男性。日本語は簡単な会話は可能。

咳・呼吸困難感が次第に悪くなり病院に入院。エイズに特徴的なニューモシスティス肺炎と思われる臨床像であったために、口頭で同意をとった上でHIV抗体検査が行われた。

この後、数日がたったところで呼吸状態もだいぶ改善し告知が行われた。

シナリオ	チェックポイント	担当
D: 今日はこの前の血液検査の結果を説明します。 <u>HIV</u> のことも説明しましたが覚えていませんか?	専門用語は訳せたか(専門性)	前
P: はい、検査をすることは <u>聞きました</u> 。 でも呼吸が苦しかったですし、言葉も良くわからなかったので <u>良く覚えていません</u> 。	患者の状況を正確に訳せたか(正確性)	
D: それではもう一度説明します。 HIVはエイズを起こす原因になるウイルスです。 ウイルスが体に入っても <u>すぐに特別な症状を起こすわけではありません</u> 。 <u>せいぜい、インフルエンザ</u> のような症状が出ることもある <u>程度</u> です。 しかし、 <u>数年かけて次第に</u> ウイルスが増えてくると、体の <u>病原体に対する抵抗力</u> が下がってさまざまな感染症を引き起こすこととなります。 これがエイズです。	医師の慎重な説明を正確に訳せたか(正確性) 感染する因果関係を明瞭に訳せたか(一貫性) 専門用語は訳せたか(専門性)	
P: そのことと私の病気と何の関係があるのでしょうか。 私の症状はとても良くなってきているので、私としては病気は <u>殆ど治ったような気分</u> になってきていますが…。 まあ、 <u>すこし強がりも入っていますが</u> …。	患者の不安や葛藤が伝わる訳になったか(忠実性)	
D: あなたの呼吸が楽になってきたのは、 <u>ニューモシスティス肺炎</u> の治療をしたためです。 薬の効果で肺の中の <u>ニューモシスティス</u> という病原体が <u>大きく減少した</u> ので症状が良くなりました。	専門用語や因果関係をわかりやすく訳せたか(専門性)	
P: で、私はどうだったのでしょうか。 <u>まさか私がエイズだなんてはずないでしょう。(少し不安げ)</u>	気持ちに添った訳ができたか(忠実性)	
D: 先日のHIV抗体検査の結果は <u>陽性</u> でした。	専門用語を正確に訳せたか(専門性)	
P: それはどういう意味ですか?		

D: あなたはHIVに感染していたということです。	正確に訳せたか(正確性)	前 (続)
P: HIVってまさか…。	曖昧表現は訳せたか(適格性)	
D: そうです。HIVはエイズを起こすウイルスです。	正確に訳せたか(正確性)	
P: (表情がこわばる) 私はエイズになっているのですか?	感情を訳せたか(忠実性)	
D: その通りです。		
P: それでは私はこれからどうなるのですか。 いつ死ぬのですか。(泣き出す)	言葉だけで伝わるか(仲介)	後
D: エイズがとても怖い病気だと思っておられるのですね。 でも、どうか私の話をよく聞いてください。 エイズの治療法はこの20年の間に大きく進歩しています。 HAARTと呼ばれる画期的な治療法ができています。 今ではエイズを発病した人でも薬を毎日確実に飲んでいれば 元気を取り戻せるようになっているのです。	誤解のないよう的確に訳せたか(適格性) 用語や数字を正確に訳せたか(正確性)	
P: 気休めを言うのはやめてください。 そんなのはごく一部の人の話でしょう。 私は死んでしまうでしょう。	感情を忠実に訳せたか(忠実性)	
D: そんなことはありません。 いまでは治療を継続している人のほとんどが社会復帰ができるようになり、仕事をしながら通院をしています。 もちろん治療は簡単ではありません。 毎日確実に薬を一生飲まなければなりません。 副作用で入院が必要になることもあります。 でもしっかりと薬をのめば、この病気を抑え込むことができるようになっていきます。 頑張って治療をしていきましょう。 私たちもできる限りお手伝いします。	足さず、引かず、変えずに訳せたか(完全性) 前後の因果関係を明確に訳せたか(一貫性) 医師の気持ちを訳せたか(忠実性)	
P: わかりました。 今はショックで頭の中が真っ白になっている感じで、あまり考えることができません。 でも先生のお話を聞いて少し希望の光が差ししてきたような気がします。	抽象表現をわかりやすく訳せたか(適確性)	

<p>D:そうです。希望を持って下さい。 しっかり健康管理をしていれば70歳、80歳までだって生きられるのです。 大分肺炎も良くなってきたので、来週からは退院して外来管理にできるでしょう。</p>	「希望を持つ」、「健康管理」、「外来管理」を適確に訳せたか(適確性)	後 (続)
<p>P:本当ですか。 家に帰ったらパートナーにも相談して今後のことを考えたいと思います。</p>	セクシャリティに配慮して訳せたか(適確性)	

シナリオ 前の評価

評価項目	項目別得点						合計
専門性	1	2	3	4			() / 28 * 項目は加点方式 * 太字の項目は5段階の全体評価
正確性	1	2	3	4			
忠実性	1	2	3				
一貫性	1						
適確性	1						
完全性							
仲介							
円滑性	1	2	3	4	5		
明瞭性	1	2	3	4	5		
ホスピタリティ	1	2	3	4	5		

シナリオ 後の評価

評価項目	項目別得点						合計
専門性							() / 25 * 項目は加点方式 * 太字の項目は5段階の全体評価
正確性	1						
忠実性	1	2					
一貫性	1						
適確性	1	2	3	4			
完全性	1						
仲介	1						
円滑性	1	2	3	4	5		
明瞭性	1	2	3	4	5		
ホスピタリティ	1	2	3	4	5		

こんかい けんしゅう

今回の研修についてのアンケート

2018年11月25日

いか

あなたは以下のどちらですか？

いちばん

ことば

にほんご

にほんご以外

あなたが一番できる言葉は： 日本語 日本語以外

いりょうつうやく けいけん

いちねん

すく

ねん

ねんみまん

ねんいじょう

医療通訳の経験は： 一年より少ない 1年～5年未満 5年以上

けっかく つうやく

エイズまたは結核の通訳をしたことがありますか： あり なし

こんかい けんしゅう よ

てん

今回の研修で良かった点は？

.....

.....

.....

こんかい けんしゅう かいぜん

てん

今回の研修で改善してほしい点

.....

.....

.....

こんご けんしゅう

べんきょう

おも

あなたが今後の研修でもっと勉強したいと思っているところ

.....

.....

.....

いりょうつうやく げんば

こま

か

医療通訳の現場で困ったことを書いてください。

.....

.....

.....

フィードバック勉強会についてのアンケート

2019.年 1月 12日

あなたは以下のどちらですか？

あなたが一番できる言葉は： 日本語 中国語

日本に滞在している年数は： __年以上

医療通訳の経験は： なし __年以上

通訳教育の経験は： なし 大学 大学院 語学学校

所属機関の研修 その他 _____

今回のフィードバック勉強会で得たものは何でしょうか？（複数回答可）

専門用語の理解 具体的に _____

聞き取り能力 具体的に _____

メモ取り能力 具体的に _____

日中の通訳能力 具体的に _____

中日の通訳能力 具体的に _____

患者への対応能力 具体的に _____

医療者への対応能力 具体的に _____

その他 _____

今回のフィードバック勉強会を通して、もっと勉強したいと思った点がありますか？

* 個人が特定されないようにして報告書や論文に引用させていただくことがありますこと
をご承知ください。